

試験研究活動情勢報告 (平成 30 年 1 月分)

【果樹試験場】

「新高」ナシの低温要求量



写真 開花・発芽異常

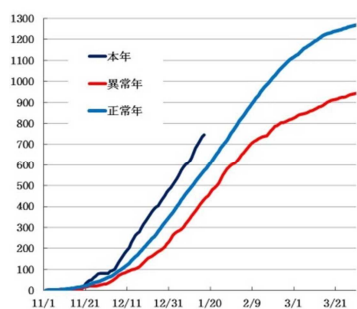


図 7.2℃以下の低温積算

ナシやスモモといった落葉果樹では、近年の温暖化の影響による冬季の低温遭遇時間の不足で開花・発芽異常が多々発生し、着果量の減少や枝の枯れ込みを招いています(写真)。正常な開花・発芽には、7.2℃以下の低温に一定時間以上遭遇する必要(=低温要求量)がありますが、本県の特産果樹である「新高」ナシは他の品種と比べても低温要求量が長く、1000時間以上を必要とします。幸い、本年は十分に低温要求量は満たされると思われますが(図)、次年以降も同じとは限りません。

果樹試験場では遮光処理による低温要求量の代替技術を開発中ですが、合わせて低温要求量の少ない品種の育成にも取り組んでいます。

【果樹試験場】 ← 11P

ハウスミカン炭酸ガス施用技術の確立



定植後の様子

ハウスミカンでの炭酸ガス施用技術確立のために、加温開始の12月15日から炭酸ガス濃度を日中600ppmで施用しています。現時点では炭酸ガス施用の効果を確認できていませんが、今後は光合成速度、果実品質、生理落果などについて調査をする予定です。また、1月16日に新設したハウスへ興津早生を定植しました。このハウスにはヒートポンプや炭酸ガス施用装置を設置し、更に炭酸ガス施用について試験を進める予定です。